

日本電子決済推進機構:Bank Payサービス

全国140の金融機関と連携

幅広いニーズに対応するバンクペイ

オールバンク体制を目指すスマホ決済サービス『Bank Pay(バンクペイ)』は、機能を継続的に強化し、利用シーンや加盟店を拡大している。新たに機能追加した「こたら送金」や、企業アプリとの提携事例、税公金支払いなど最新の取り組みを紹介する。

こたら送金で
個人間の送金が可能に

『Bank Pay(以下、バンクペイ)』は、2019年10月にサービスを開始した地銀やメガバンクなどが参加するスマートフォン決済アプリだ。アプリを介してユーザーの銀行口座に直結し、ショッピングなどの支払い時に即時引き落としを可能にする。従来のキャッシュカードを利用した『J・Debit』のスマホアプリ版といえどイメージしやすいだろう。2023年1月末時点でメガバンクをはじめ地方銀行、信用組合、労働金庫など全国140の金融機関がバンクペイと連携しており、2023年度中には信用金庫も参画する予定。企業のオリジナルアプリとの提携案件は13社まで増加し、取扱高は前年比10倍超のペースで伸長している。

広がっている。

こたら送金とは、メガバンクが主導するスマートフォンを通じた個人間の少額送金サービスのこと。アプリを使って10万円まで送金できる。送金先の指定に口座番号だけでなく、メールアドレスや電話番号も使用できる点が特徴だ。自身の他行口座への移し替え、家族間のお金のやりとりや割り勘といったシーンで利便性を発揮する。2023年1月末時点で31行で利用可能だが、今後対応予定の170信用金庫等も含めると231の金融機関まで広がる。みずほフィナンシャルグループの『J・Coin Pay』や三井住友銀行アプリなど、11種類の『2023年1月末時点』の銀行系の送金・決済アプリが、こたら送金機能を実装しているが、その中で利用できる銀行が19行(2023年1月末時点)と最も多いのがバンクペイなのだ。特定の金融機関のアプリではないからこそ、多くの金融機関がこたら送金対応アプリとしてバンクペイを採用している様子が窺える。今後

とも同サービスでバンクペイを選択する金融機関は増える予定。2023年4月からは、こたらのインフラを活用して地方税納付書のQRコードに対応した支払い機能も追加されることになるなど、バンクペイの利便性はますます向上することになる。

チャージや地方自治体
利用シーン広がる

『UNIQLO Pay』や『TOYOTA Wallet』をはじめ、企業アプリとの提携も順調に拡大している。小売りや外食チェーン等に留まらず、資金移動業者や決済サービス会社からの引き合いが増えており、店頭やECサイトでの決済の他、バリエーションが豊富に増えている。その1つとして、2021年12月に『au PAY』のチャージ機能にバンクペイが追加された。全国122(2023年1月末時点)の金融機関口座からau PAY 残高へのチャージが可能になりau PAY ユーザーの利便性が大幅に向上した。

九州を地盤に全国でディスカウントストアやスーパーなど271店舗を展開するトライアルが提供する『SU・PAY(スーペイ)』とも連携した。スーペイのユーザーはバンクペイを利用して銀行口座を登録することで、金融機関のウェブサイトにログインすることなくチャージが可能になった。

スマートバンクが運営するチャージ式Visaプリペイドカードと家計簿アプリがセットになった『家計簿アプリカ』サービス『B/43』への入金手段としても使われる。バンクペイのVisaプリペイドカード提供事業者への導入はこれが初めての事例だ。後払い決済サービスのSmart payが2022年12月からSmart pay Bank Direct(バンクダイレクト)は、日本初の銀行口座から即時引き落としがで

きる後払い決済サービス。このサービスもバンクペイの仕組みを利用して73金融機関の口座に対応している。岐阜県恵那市では、プレミアム付き商品券を電子化する取り組みを2022年9月からスタートした。これによりユーザーは紙媒体のほか、アプリにクレジットカードまたは銀行口座から残高をチャージすることにより、スマートフォンを利用した支払いができるようになった。このサービスはNTTデータとインフキュリオン、

十六銀行が共同で運用しており、銀行口座からのチャージ機能をバンクペイが担っている。このようにバンクペイはECやチャージ、地方自治体、税公金の支払い、個人間の送金など幅広いニーズに対応するサービスのポテンシャルを持つ。全国の金融機関の口座に紐づく決済サービスであることから、すべての事業者・消費者が潜在顧客である点が最大の強みなのだ。さらなる機能拡充によって今後の利用シーンは、ますます広がっていくはずだ。

[こたら送金の特徴]

携帯電話番号やメールアドレスでも送れる	1円単位で送れる	安価な手数料 ^{*1}
アプリを気にせず送れる ^{*2}	送る前に残高を確認できる ^{*3}	メッセージも一緒に送れる ^{*4}

*1 こたら送金の手数料は各金融機関によって異なる場合があります。詳しくは登録口座の金融機関にお問い合わせください。
*2 こたら送金ができる金融機関宛てに送金ができます。
*3 口座残高は各金融機関の基準により実際の口座残高と異なる場合があります。詳しくは登録口座の金融機関にお問い合わせください。*4 携帯電話番号・メールアドレス送金時のみメッセージが送れます。

[企業アプリとの提携事例の一例]

1 『SU-PAY(スーペイ)』との連携(2022年9月~)



- 『SU-PAY(スーペイ)』は、九州を地盤に全国でディスカウントストアやスーパーなど271店舗を展開するトライアルが提供する決済アプリ
- スーペイのユーザーはバンクペイを利用して銀行口座を登録することで、金融機関のウェブサイトにログインすることなく、金額入力とチャージ用暗証番号の入力、もしくは生体認証を行うだけでチャージできる

2 家計簿アプリ『B/43(ビーヨンサン)』との連携(2022年6月~)



- スマートバンクが運営するチャージ式Visaプリペイドカードと家計簿アプリがセットになった『家計簿アプリカ』サービス『B/43』への入金手段としてバンクペイが採用される
- Visaプリペイドカード提供事業者への導入は初

3 『Smartpay Bank Direct(バンクダイレクト)』との連携(2022年12月~)



- Smartpayが提供する『Smartpay Bank Direct(バンクダイレクト)』は、銀行口座から即時引き落としができる後払い・BNPL(Buy Now, Pay Later)サービス
- 同サービスは、日本電子決済推進機構の協力のもと開発されており、銀行口座との連結はバンクペイが使われる